



農林水産業費
16億6,910万円

農業経営活性化事業

問 花咲く暮らしラボの効果をどのように捉えているのか。

答 渥美半島菜の花まつりの入場者数が前年度と比較して増加したことや、テレビ番組やメディアへの露出換算額が約3200万円であったことなどから、市内外に本市の魅力について広く発信できたと捉えている。

問 クラウドファンディング型ふるさと納税を実施した結果は。

答 令和6年の11月27日から翌年の2月24日の期間で実施したクラウドファンディング型ふるさと納税では666件の寄附があり、約1550万円寄附額があった。



商工費
9億1,707万円

観光推進事業

問 観光事業者等提案事業補助金について、この補助金制度をどのように評価したのか。

答 観光振興だけでなく、人材育成および組織強化にもつながったものと評価をしている。

問 20万円という上限額は適当であったと考えているのか。

答 3年後には自走して事業を行ってもらうことを前提とした、スタートアップのための補助金制度となっている。1年目の上限を引き上げて実施した場合、2年目、3年目の補助率が下がったときの自己資金の負担額も増えることとなるため、上限額20万円は適当であったと考えている。



土木費
36億9,116万円

建築関連指導行政事務

問 波瀬町と東滝頭、ほとと台で第二次スクリーニング調査（大規模盛土造成地変動予測調査）を1600万円程度で実施したが、この調査結果はどのようなものであったのか。

答 いずれの箇所においても、地震時の安全率が基準値を上回っており、現時点での安全性を確認することができた。

問 この結果に基づいて、どのような対応を考えているのか。

答 市内23箇所の大規模盛土造成地について、変状や湧水の発生、擁壁等の構造物に変化があるかどうかを確認する定期点検を、5年ごとに実施していく予定である。



教育費
47億1,275万円

共育推進事業

問 専門員の人員配置について、令和6年度を終えて見えてきた課題はあるか。

答 児童生徒からの相談が増加傾向にあることや、不登校の増加に伴い、くすの木ルームに通う児童生徒も年々増加している。このような状況において、一人一人の悩みを抱える児童生徒に十分寄り添った支援ができていたとは言い難い状況であり、必要に応じた適切な専門職の増員が喫緊の課題であると認識している。

問 スクールソーシャルワーカーの不足感について、どのように認識しているのか。

答 将来を支える子どもの教育環境を整えるため、専門職の増員が課題解決に必要なことだと考える。